

令和7年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校

<p>【高知県の教育の基本理念】</p> <p>(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人</p>	<p>【取組の方向性】</p> <p>④「4つの基本方針」 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子どもたちを誰一人取り残さない、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「高知家」の教育・学びの充実に向けた各種施策を総合的・計画的に推進するために、必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備</p>	<p>学校 校 校</p>	<p>生徒一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、意欲的、主体的に社会参加していくことができる人間を育成する。 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校</p>	<p>目 指 す た け 組 の 概 要 に</p>	<p>I 就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上 ・生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上 II 職業生活に必要な力の育成 ・生徒一人一人のニーズに応じた職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活や社会生活に必要な力の育成 III 地域貢献の推進 ・地域における清掃活動やボランティア活動等貢献活動を通して、働くことの意義の確認し生徒の自己肯定感・自己有用感の高揚 IV 働き方改革 ・ワーク・ライフバランスを考えた健康で活性化された職場づくり V 不祥事防止に向けた取組 ・教職員の倫理観の堅持 ・不祥事防止対策の徹底 ・よりよい職場風土づくり</p>
---	---	-----------------------	--	--	--

【重点取組項目】

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
<p>専 門 性 の 向 上 実 現</p>	<p>就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上</p> <p>生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上を目指す。</p>	<p>【現状】 ①全教職員が企業就労や福祉的就労について、基礎的な知識は身に付けることができたが、さらに専門的知識を身に付けるために継続して研修を深めていく必要がある。また、生徒たちのより充実した進路先を決定するためにも保護者への学習会を行う必要があると思われる。 ②職業科(作業学習)等におけるキャリア教育の視点を踏まえた更なる授業改善に取り組む必要がある。 ③心身面に課題があり、精神面での弱さや不登校傾向のある生徒が増加してきている。 ④より適切な自立活動を行う必要がある。 ⑤各授業でのICT活用及び教材づくりは進んでおり、Chromebookの活用もできつつある。教職員間での情報共有はまだ充分にはできていない。 【評価指標】 ①進路指導の基礎に関する理解 ・全教職員が、生徒・保護者に進路先への手続等について説明できるようになる。 ②キャリア教育の視点に基づいた授業づくり・授業改善 ・職業科(作業学習)において、重点的に取り組む。 ③不登校傾向・登校渋りの解消・低減 ・生徒・保護者への適切な支援に取り組む。 ④個々の実態に応じた自立活動の授業改善 ・自立活動の充実に取り組む。 ⑤ICT機器(Chromebookや電子黒板等)の有効活用 ・生徒間のコラボレーションを意識した授業づくり</p>	<p>①教職員及び保護者対象に進路学習会を開催する。 ②職業科(作業学習)内容のブラッシュアップに努める。また、「キャリア教育戦略会議」を開催し、一般企業等からの助言をいただく。今年度は、万々商店街にも声を掛け参加をお願いする。 ③生徒の現状を教師間で共有し、学校全体で支援方法を検討していくとともに、SC、SSWとの連携を図りながら、生徒や家庭への継続的な支援を行うことで、不登校傾向や登校渋りの解消又は低減を図っていく。 ④教職員全体で自立活動の見直しを行う。 ⑤今後もChromebook内のアプリケーションソフト(FigJam, Spreadsheet等)を有効に活用し、生徒の発信力や分析能力、課題解決能力の向上を目指す授業を行っていく。また、教師のICT機器活用能力の向上のために、GIGAスクールサポーターによる授業参観を依頼し、授業でのICT活用へつなげる学習会を定期的に開催する。</p>	<p>①転入教員対象に、企業就労や福祉的就労に係る学習会を開催した。「就労選択支援」制度が10月施行されたため、進路担当者等が研修会に参加。3学期に教員対象に研修会を実施する予定 ②「キャリア教育戦略会議」に向け、5月に中小企業家同友会事務局を訪問し、協力依頼を実施。その他企業・事業所等への協力依頼は今後行う予定 ③SC、SSWと積極的に連携している。不登校生徒の対応は継続中。SC講演会を月に実施済 ④生徒の実態把握から効果的な指導について検討中。高知大学教授等を講師に、校内研修会を実施(年5回のうち3回実施済) ⑤県のGIGAスクールサポーターを活用し、情報機器の積極的な活用を促している。8月ICT研修会(FigJam講習会)を開催済</p>	<p>①保護者対象のPTA視察研修を9/24(水)に実施予定。また、3学期に教員対象に「就労選択支援」制度に関する研修会を実施する予定 ②「キャリア教育戦略会議」の2学期実施に向けて調整を行う。 ③引き続き、SC、SSWと連携を行い、役割に応じた生徒支援につなげていく。不登校生徒に対しては、SSW面談を通して、徐々に卒業に向けた登校の意欲喚起につなげる。 ④引き続き、研修や校内での振り返り等において、着実な指導力の向上を図っていく。 ⑤継続して県のGIGAスクールサポーターを活用しながら教職員のChromeBook等の活用方法のスキルアップを目指す。また、授業での活用方法の情報共有を行う。</p>	<p>①保護者対象企業視察研修、教員対象「就労選択支援」制度に関する研修会を実施した。新制度については事業所によって手法が異なるため、今後理解を深めていく必要がある。 ②現場実習等の振り返りを行うことで自己理解の促進を図ってきた。「キャリア教育戦略会議」では、直接生徒と参加企業が意見交換し、必要な情報を得ることができたが、次年度は事前準備を充実させる必要がある。 ③必要に応じてケースを開き、保護者や各専門機関と情報共有を行った。療育相談やSC、SSWの紹介をし、つなげることができた。 ④研修を重ね理解したことを生かし、自立活動の視点に基づいた実態把握や、個々の中心課題にアプローチしたグループ分けした授業を工夫して実践した。各教科の授業改善につなげるよう次年度も継続して取り組む。 ⑤各教科でデジタルツールを活用し、共同編集やスライド発表等を行うことができた。</p>	<p>・学校関係者からの意見なし。 ・学校評価アンケート結果(保護者) 1 そう思う、2 ややそう思う (肯定的評価) ③ 学校と家庭との連携が難しいケースがあった。今後も複数人での対応を継続し、情報共有を行いながら生徒への支援につなげていく。 (3) 学校はあなただ(保護者)と連携し、生徒の教育に取り組んでいますか? 肯定的回答:100.0% (6) 教職員は生徒たちの障害の特性や個性に応じた指導や支援を行っていると思いますか? 肯定的回答:97.4% (9) 学校は保護者に就労に関する情報提供を積極的に行っていますか? 肯定的回答:97.4%</p>	<p>①ニーズに応じた研修会を計画していく。 ②引き続き、内容を考察、検討、確認し、発展しているように継続した取り組みを行う。 ③教科と家庭との連携が難しいケースがあった。今後も複数人での対応を継続し、情報共有を行いながら生徒への支援につなげていく。 ④教科の下支えとなる自立活動として、個々の生徒の実態から背景を読み取り、教科に反映される授業づくりを行う。 ・各教科の単元計画・年間指導計画を見直し、目標を達成するために工夫した教材研究を行う。 ・中心課題を多面的に検討するための時間確保が必要である。 ⑤ICT研修を開催し、使用方法等を学ぶなどしてICT機器の活用能力の向上につなげていく。</p>
<p>職 業 生 活 に 必 要 な 力 の 育 成</p>	<p>キャリア教育の充実</p> <p>生徒一人一人のニーズに応じた職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活や社会生活に必要な力を育成する。</p>	<p>【現状】 ①生徒の希望する就労先への就労はほぼできている。一般就労率の目標は達成することはできなかった。また、今後とも定着率を向上させるためにもアフターケアを充実させることが必要である。 ②JSP制度の活用により、2事業所・1専門学校から専門家の派遣を受け、生徒の職業能力の向上に資することができる。 ③現場実習後に事業所からの評価を受け、生徒自身が次の目標(ステップ)を設定し、その目標を達成するための「ステップアップシート」の活用ができている。 ④これからの社会生活において、異文化や異人種の理解をすすめる国際理解力の育成が必要である。 ⑤余暇活動については、陸上競技等についてはつなげることができているが、学校全体ではまだ取り組むことができていない。 【評価指標】 ①希望進路の100%確定(一般就労率を80%)及び離職率の低減 ・実習・進路先の確保(新規開拓)及び情報提供 ・アフターケアの適切な実施 ②生徒の職業能力(知識・技能等)の向上・維持 ・職業科(作業学習)の授業改善(専門家からの助言) ・技能検定:1級取得15名以上、アビリンピック入賞:5名以上 ③ステップアップシートの有効活用 ・学級と作業班の情報共有及び指導体制の確立 ・ステップアップシートの利便性の向上(シート改良) ・開示シートによる情報共有(生徒・保護者) ④SDGs等の視点を取り入れた授業づくり(各教科等) ・環境教育、国際理解教育への取組 ⑤余暇活動についての意識調査 ・アンケート調査を実施</p>	<p>①就職アドバイザーとの連携により、新規の実習・進路先の確保(年50件以上を目指す)に努めるとともに、進路に関する情報提供(「進路だより」の発行)を年間5回以上行う。また、「高等部卒業生のアフターケア」を積極的に活用し、卒業生の就労先への訪問を行うことで、聞き取り調査を行っている。 ②JSP制度の活用を継続し、職業科(作業学習)において、外部専門家による評価(ソーシャルスキル、ワークスキル)を受けることにより、さらなる職業能力の向上及び維持につながる授業改善に取り組む。技能検定等での級や賞の取得で取組の成果を検証していく。 ③個々の生徒の職業能力上の強みや課題をステップアップシートに整理するとともに、学級及び作業班でその情報を共有し、学級活動や作業学習等において、統一した指導・支援に取り組む。また、進路相談支援部を中心に、各学級担任等が、シート全体の構成や生徒・保護者への振り返り表の利便性を検証し、より良いものに改善していく。 ④社会科、英語科等の各教科、特別の教科道徳、特別活動等において、SDGs等に関する内容を年間1回以上計画、実施する。 ⑤職業科(教科)において、就労支援の一環として余暇活動の充実に向けて取り組む。</p>	<p>①8月末現在、新規の実習・進路先の確保は、19件(新規開拓9件)、卒業生へのアフターケアは、58件、進路だよりの発行を年間5回以上行う。また、「高等部卒業生のアフターケア」を積極的に活用し、卒業生の就労先への訪問を行うことで、聞き取り調査を行っている。 ②JSP制度を活用し、各作業において外部講師を招き実施している。アビリンピックや技能検定に向けて練習し、一定の成果を上げることができた。【アビリンピック入賞】Oビリンピック:銀賞1名、銅賞1名、努力賞1名、O喫茶サービス:金賞1名、銀賞1名、銅賞1名、努力賞2名、Oオアシスアシスタント:銀賞1名、【技能検定1級取得者】O情報(5種目累計):13名、O接客:6名、O情報:1名計 ③保護者面談で現場実習ステップアップシート(生用)をもとに共通理解を図り、今後の指導につなげている。 ④職業科において、ゴミの分別や資源を有効活用するための修徳・別途の使用、協力関係における効率の意識付け等が行われている。 ⑤余暇活動アンケートは実施できていない。部活動や総合的な探求の時間等において、運動や制作活動、ダンスなどに取り組んでおり、興味の幅を広げることができている。</p>	<p>①引き続き就職アドバイザーと連携し、新規の実習・進路先の開拓を進めていくとともに、アフターケアにも適宜取り組んでいく。また、「進路だより」等により進路に関する情報を保護者に提供する。 ②2学期以降もJSP制度の活用により、生徒の職業能力(知識・技能等)の向上を計画的に進めていく。 ③引き続き、ステップアップシートの活用を進めていく。また、各生徒の作業学習の様子や目標について、学級担任と作業担当者との共通認識をさらに充実させる。 ④引き続き、SDGs等に視点を取り入れた授業を実施する。 ⑤英語、社会、理科等で取り組んだ、ALTとの交流において、カナダやフィリピンの文化や日本との考え方の違いなどについて学習を深めた。物流作業では、メモ帳づくり、卵袋づくりなどを通して、環境問題に取り組んだ。 ⑤余暇活動アンケートは実施していない。部活動や総合的な探求の時間等において、興味・関心の幅を広げている。やりたいことに取り組んでいる生徒は90.2%に及んでいる。</p>	<p>①アドバイザーとの連携により、現場実習の決定(77件)につながった(新規20件)。また、離職等に対して関係機関と連携したアフターケアを行っている。進路便り発行により、適宜、保護者等に情報提供できた(1月末時点で11回)。3年生3名が3学期に実習を実施した。不登校となった2名の進路決定はできていない。 ②JSP制度の活用もあり、技能検定1級取得者累計20名、アビリンピック入賞者累計9名となった。投資式参加や全国大会出場により自信を高めることにつながることができた。 ③ステップアップシートには、新規に「就労支援のためのアセスメントシート」を設け、現場実習後の振り返り面談等においてアセスメントシート等を活用し、次の実習につなげた。生徒・保護者にとって理解しやすく、就労支援のための共通認識をもつことができた。次年度も継続する。 ④英語、社会、理科等で取り組んだ、ALTとの交流において、カナダやフィリピンの文化や日本との考え方の違いなどについて学習を深めた。物流作業では、メモ帳づくり、卵袋づくりなどを通して、環境問題に取り組んだ。 ⑤余暇活動アンケートは実施していない。部活動や総合的な探求の時間等において、興味・関心の幅を広げている。やりたいことに取り組んでいる生徒は90.2%に及んでいる。</p>	<p>・進路決定に向けて、自己理解と他者理解をどう進めていくか。 ・評価指標における技能検定やアビリンピック出場のある自立活動との関係について、生活上の困難の克服に向け、各教科にもアプローチして学習する。 ・※ステップアップシートの活用 ・生徒のニーズに応じた教育ができています。 生徒が自尊心をもつ取組が大事だが、できていない。 ・情報提供については、進路だより等を通じてできている。かまわない範囲で地域にも情報発信してほしい。</p>	<p>①雇用に関する状況は日々変化するため、常に情報収集に努める。その他取組は継続実施する。 ②評価指標における技能検定やアビリンピック出場のある自立活動との関係について、生活上の困難の克服に向け、各教科にもアプローチして学習する。 ③各クラスと作業担当者との連携を一層進める必要がある。ステップアップシートについては、検証と改善を継続する。 ④就職支援のみならず、職業生活でのリフレッシュ方法やストレス解消方法について考える学習も継続して実施する。</p>
<p>学 校 設 定 項 目</p>	<p>地域貢献の推進</p> <p>地域における清掃活動やボランティア活動等を通して、働くことの意義を確認しながら、生徒の自己肯定感・自己有用感を高めていく。また、清掃活動等の環境教育を通して、SDGsの達成にも取り組んでいる意識を育てていく。</p>	<p>【現状】 ①地域清掃等の貢献活動を実施することができている。活動をする場所についても増やすことができている。地域住民からの感謝の言葉を受けることがあり、生徒のやりがいにつながっている。 ②「よさこい祭り給水ボランティア(万々商店街)」、「みかづきまつり(出店)」、「みかづきふれ愛フェア」に参加することができた。 ③清掃活動・環境教育やSDGsとの関連についての学びは不十分である。 【評価指標】 ①②働く意義の理解(他者や社会への貢献) ・地域の清掃活動の継続、各イベントへの参加 ・取組に対するアンケートの実施(実施対象の拡大) ③清掃活動を通じた環境教育の実施</p>	<p>①地域の清掃活動やボランティア活動を実施していくことで、働くことの意義を体験を通して学ぶとともに、本校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。また、地域の方へアンケートや活動として「みかづきまつり」での出店・運営、「よさこい祭り清掃・給水ボランティア」での万々商店街でのゴミ拾い・踊りへの給水活動の一部の生徒に限られたが実施し、地域の方々に喜んでいただくことができた。 ②今年度も地域のイベントに積極的に参加する。 ③環境問題を意識しながら、SDGsの視点をもつて商店街等の清掃活動に取り組むことで、ゴミの分別方法やリサイクルの重要性についての学びを深めていく。</p>	<p>①今後も積極的に地域での清掃活動を実施し、障害者に対する理解啓発につなげることや生徒の自己効力感が得られるよう努める。 ②引き続き、地域イベント等に参加し、社会貢献の体験を積む機会を設ける。 ③例年より各種イベントに参加することで、参加生徒は役立てた実感、楽しみながら自己効力感を得ることができた。参加者数の増加を見込みながら次年度も継続する。 ④環境を守ることを意識してゴミ分別しながら清掃活動に取り組むことができた。</p>	<p>①今後も積極的に地域での清掃活動を実施し、障害者に対する理解啓発につなげることや生徒の自己効力感が得られるよう努める。 ②引き続き、地域イベント等に参加し、社会貢献の体験を積む機会を設ける。 ③例年より各種イベントに参加することで、参加生徒は役立てた実感、楽しみながら自己効力感を得ることができた。参加者数の増加を見込みながら次年度も継続する。 ④環境を守ることを意識してゴミ分別しながら清掃活動に取り組むことができた。</p>	<p>①作業学習(環境サービス)では、地域清掃に継続的に取り組むことができた。活動範囲も広がった。生徒は技能の高まりや作業の成果を感じることができている。地域における学習会や学校紹介をすることで、アンケートでは生徒への感謝の気持ちや数々確認することができた。予算管理も適正に執行できている。 ②例年より各種イベントに参加することで、参加生徒は役立てた実感、楽しみながら自己効力感を得ることができた。参加者数の増加を見込みながら次年度も継続する。 ③環境を守ることを意識してゴミ分別しながら清掃活動に取り組むことができた。</p>	<p>・まちづくり連携協議会で、高知みかづき分校の取組について聞かされていた。今後も交流を目指したい。 ・清掃活動など、生徒さんが地域貢献してくれており、お礼を言いたい。生徒さんが地域貢献をしていることに自信をもってもらい、地域の方とも一緒に関わることができると良い。地域への貢献していること認識度を上げるためのアピールをしてはどうか。地域での活動中にアピールできる方法を考えてはどうか。遠目でも分かるように。(例)ワゴンに団体名、たすき、のぼり看板等</p>	<p>①今年度、雨天で実施できなかった少年サートセンターとの共同活動である城西公園清掃ボランティアを次年度も継続して計画する。 ②初月地区の様々なご厚意により、次年度は地域交流行事を追加する予定である。</p>
<p>働 き 方 改 革</p>	<p>ワーク・ライフバランスを考えた健康で活性化された職場づくりに努める。</p>	<p>【現状】 ①各分掌の業務内容、進捗状況を共有することにより、学校全体で様々な行事に取り組む事ができている。分掌による業務量の偏りは、少なくなってきており、分掌内での業務の引継ぎ等についてもできつつある。 ②指導案・教材等の共有化は、できつつある。また、情報担当者を中心にICT機器の活用事例の共有は進んできている。 ③グループウェアの活用はできるようになり、業務改善につながっている。電子起案については、まだ十分にはできていない。 【評価指標】 ①各分掌業務の標準化と引継ぎ体制の構築 ・適切な人員配置 ・学校全体での協力体制の構築 ・副部長職の育成(指導・助言体制) ②教材等のデータの共有 ・教材データの保存方法及び活用の周知 ・ICT機器を活用した授業内容の共有 ③グループウェアの積極的な活用、電子起案の活用 ④引き続き取り組んでいく。また、SC・SSWも積極的に活用していく。</p>	<p>①年度ごとに各分掌の業務内容の確認を行い、適切な配置人数に振り分ける。 ②「教材フォルダ」を引き続き活用し、改善につなげていく。また、ICT機器の活用事例の共有をさらに進めていく。 ③引き続きグループウェアの活用方法(文書收受、アンケート等)についての学習会を開催し、全教職員のスキルアップを図り、業務改善・軽減につなげていく。また、電子起案を進め、ペーパーレス化に取り組む。</p>	<p>①各分掌の業務削減については、職員数削減に伴い、業務量に偏りが見られる。協力体制の構築は引き続き課題である。 ②業務の効率化のため、学習系PCの「教材フォルダ」内の整理に取り組んでいる。データ容量の削減のみならず、活用促進につながる取組ができている。 ③電子起案等の仕方の研修会を5月に実施済。文書情報システムの活用が促進している。グループウェアを活用したスケジュール確認ができている。</p>	<p>①管理職から積極的に助言を行い、分掌業務の標準化及び業務内容の見直しを進める。 ②「教材フォルダ」の充実を進めるとともに、利便性が高まる管理に取り組んでいく。 ③グループウェアの有効活用、文書情報システムの活用等について引き続き周知していく。</p>	<p>①情報担当者を教務研究部に配置したことにより、校内の情報管理のみならず、年度当初の校務支援システムの運用や研修時の機器の設置等でスムーズに業務を進めることができた。 ②学習系共有フォルダ内の各データを一覧できるように、分掌や教科等のフォルダを整理し直すことができた。活用を図っていく。 ③情報共有にグループウェアを活用することで、情報の伝達漏れの防止と時間削減に努めた。文書情報システムの活用は、少しずつだが促進している。今後も着実に進捗を図る。 ④教職員に対してもSCの利用を呼びかけ、SSWともに困難な生徒対応等の相談対応を実施し、精神面の負担軽減に取り組むことができた。</p>	<p>・学校関係者からの意見なし。</p>	<p>①校務分掌の違いのみでなく、分掌内でも業務量に差がある現状、引継を兼ねて協力体制を構築する必要がある。 ②共有フォルダ内の整理ができたため、より一周知を図り、教材資料データの活用を進めていく。 ③グループウェアにおける情報共有とともに、アンケート機能や文書情報システムの活用を今後も継続する。 ④SC、SSWの相談対応は継続する。</p>
<p>不 祥 事 防 止 に 向 け た 取 組</p>	<p>★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応</p>	<p>○現状課題 ・不祥事防止のため、教職員同士が気が付け合う風土はできつつある。リスク管理については、より抜かりなく行う必要があるため、管理職から定期的に声掛け、確認をしていく必要がある。不祥事発生時の対応については、フロー図はできているが、より実用的なものにするために検討を重ねる必要がある。 ○校内研修の実施回数 ・各学期ごとに実施する。 ○不祥事防止委員会の実施回数 ・年6回、実施する。</p>	<p>・不注意事項発生時には教職員に注意喚起を行う。 ・「よりよい職場風土づくり」を全教職員で意識しながら取り組む。 ・外部講師を招へいし、不祥事防止研修会を実施する。 ・6月、10月、2月を不祥事防止月間とする。</p>	<p>○不注意事項発生時には教職員に注意喚起を行う。 ○校内研修会を今後も継続実施することで、教職員の倫理観の堅持や不祥事防止への注意喚起、よりよい職場風土づくり等に取り組む。 ○引き続き不祥事防止委員会を4回実施(4、5、6、8月)</p>	<p>○各種対応マニュアルやフロー図の見直しを引き続き検討する。 ○校内研修会を今後も継続実施することで、教職員の倫理観の堅持や不祥事防止への注意喚起、よりよい職場風土づくり等に取り組む。 ○引き続き不祥事防止委員会を4回実施(4、5、6、8月)</p>	<p>○毎月開催する不祥事防止委員会のメンバーによる不祥事防止研修会を、基本、毎月実施し、定期的な注意喚起と意識付けを行うことができた。今後は、管理職において継続実施していく。 ○各種対応マニュアルやフロー図において、見直しが必要なものがある。引き続き検討を行う必要がある。 ○誤配付防止の教員によるダブルチェックの意識は学校全体で定着してきている。</p>	<p>・毎月研修会ができていた。不祥事が続いているため、継続して行っていくこと。 ・誤配付がないように、ダブルチェックの意識が進んでいる。</p>	<p>○不祥事防止研修会は、今後管理職において実施する方向で、年3回を予定する。 ○各種対応マニュアルやフロー図の見直しを継続する。</p>